

## 4 地球環境関係データ

### ■概要

#### (1) 大阪府域における温室効果ガス排出量の推移

府域における2017（平成29）年度の温室効果ガス排出量は5,332万トン（CO<sub>2</sub>換算）です。前年度と比べると5.3%減少しており、その主な要因としては、電気の排出係数の減少が挙げられます。また、2017年度の二酸化炭素排出量は4,954万トンであり、前年度と比べ6.0%減少しています。

#### (2) 大阪府域におけるエネルギー消費量の推移

2017（平成29）年度のエネルギー消費量は595PJ（ペタジュール）<sup>※</sup>であり、前年度から変化はありませんでした。

※J（ジュール）はエネルギーの単位。PJ（ペタジュール）は10<sup>15</sup>Jを表す。

#### (3) 再生可能エネルギー等の導入実績

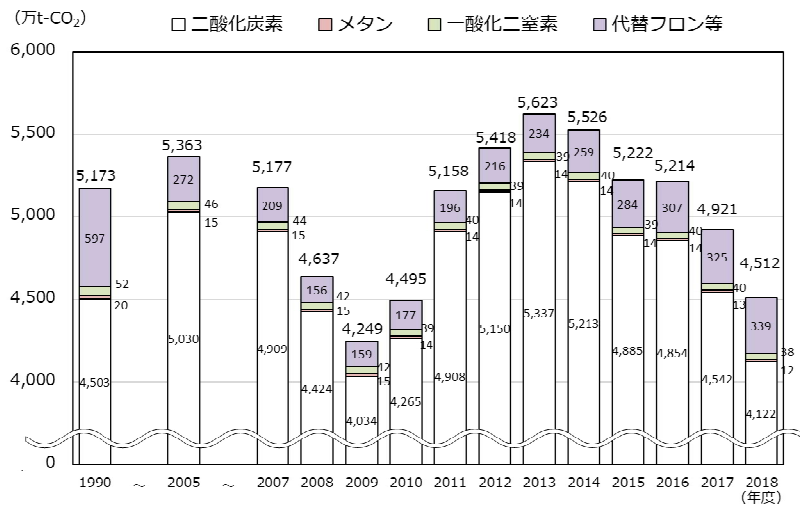
府における再生可能エネルギー等の導入実績（令和2年度末時点）は、太陽光発電が108.0万kWであり、前年度と比べ、4.9万kW増加しています。また、コージェネレーション等の分散型電源が56.2万kW、廃棄物発電等が26.9万kW、などとなっています。

#### (4) 酸性雨（酸性沈着）

「酸性雨」とは、以前は大気汚染物質である硫黄酸化物や窒素酸化物の影響により、降水のpHが酸性（pH5.6以下）を示す雨のこととされていました。しかし、現在では「酸性雨」は単に降水（湿性沈着）だけでなく、粒子状物質やガス状物質（乾性沈着）をあわせた「酸性沈着」として、国境を越えた広域的な問題としてもとらえられています。これらは土壌、樹木、湖沼などの生態系に影響を及ぼすおそれがあるといわれています。

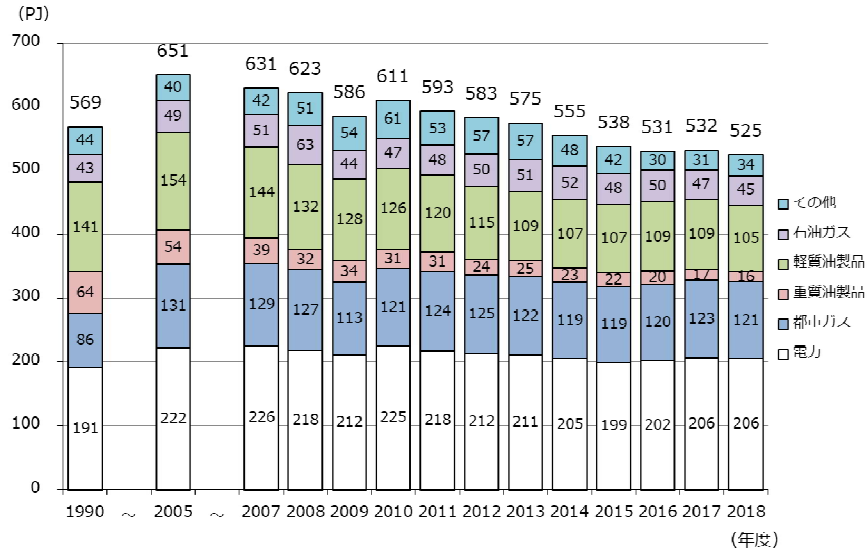
府では全国的な酸性沈着に関する調査に参画しています。平成25～29年度の調査結果によれば、全国各地の平均でpH4.77の酸性雨が降り続けていることが示されており、将来、これらによる影響が顕在化するおそれが考えられ、今後も注意深く監視を続ける必要があります。

## 4-1 大阪府域における温室効果ガス排出量の推移



- (注) 1. 電気の排出係数は、2005～2007年度は一般電気事業者等(現行制度における小売電気事業者)に対して大阪府が行った調査等により府内基礎排出係数を推計し、2008年度以降は同様の調査等による府内調整後排出回数を推計し、算定に用いた。
2. 四捨五入の関係で、各値の合計と合計値が一致しないものがある。

## 4-2 大阪府域におけるエネルギー消費量の推移



※PJ(ペタジュール):エネルギー量の単位で、千兆(10の15乗)J(ジュール)のこと  
 なお、1J(ジュール)≒0.239カロリーとなる。  
 例えば、0°Cも水1リットルを100°Cまで沸騰させるには、  
 418kl(キロジュール)=418,000J(ジュール)が必要となる。

#### 4-3 府内の再生可能エネルギー等の導入実績

(令和2年度末現在)

種 類	府内の導入実績
太陽光発電	108.0万kW (住宅用:47.4万kW、非住宅用:60.6万kW)
分散型電源(コージェネレーション等)	56.2万kW (家庭用:5.5万kW、事業用:50.7万kW)
廃棄物発電等	26.9万kW (うち、一般廃棄物による廃棄物発電:26施設24.0万kW)